

修士論文（要旨）

2019年1月

日中接触場面におけるスピーチレベルの選択基準に関する調査
- 中国人上級学習者の社会的ネットワークに注目して -

指導 宮副ウォン 裕子 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻

216J3006

李 佳潔

Master's Thesis (Abstract)

January 2019

An Analysis on the Criteria of Speech Level Choice in Contact Situations:
Focus on the Social Network by Chinese Speakers of Japanese

JIAJIE LI

216J3006

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Yuko Miyazoe-Wong

目次

第1章 序論	1
1.1 研究背景・動機.....	1
1.2 研究目的	2
1.3 本稿の構成.....	3
第2章 先行研究と本研究の位置づけ	4
2.1 「スピーチレベル」に関連する用語	4
2.2 スピーチレベル・シフト.....	5
2.2.1 スピーチレベル・シフトとは.....	5
2.2.2 母語場面における先行研究.....	6
2.2.3 接触場面における先行研究.....	7
2.3 先行研究における問題の所在	8
2.3.1 データの種類.....	8
2.3.2 調査対象と課題	10
2.4 本研究の研究課題	11
第3章 調査概要	12
3.1 調査協力者.....	12
3.2 調査方法	13
3.3 スピーチレベルの分類の基準	14
3.3.1 「あいづち」の発話の扱い.....	15
3.3.2 「一発話」の捉え方	16
3.3.3 スピーチレベルの分類の基準.....	18
第4章 調査結果.....	21
4.1 CJ1	21
4.1.1 CJ1の社会的ネットワーク.....	21
4.1.2 CJ1のスピーチレベルの使用実態.....	24
4.1.3 CJ1のスピーチレベルの選択基準.....	25
4.2 CJ2.....	27
4.2.1 CJ2の社会的ネットワーク	27
4.2.2 CJ2のスピーチレベルの使用実態.....	29
4.2.3 CJ2のスピーチレベルの選択基準.....	30
第5章 総合考察	33
5.1 学習者基本レベルの選択に関する考察	33
5.2 学習者のスピーチレベルの選択基準についての考察	33
5.2.1 「社会的規範」に関する基準.....	33
5.2.2 「言語的要因」に関する基準.....	34
5.2.3 「個人のストラテジー」に関する基準	35
5.3 日本語教育への示唆.....	37

第 6 章 まとめと今後の課題	39
6.1 まとめ.....	39
6.2 今後の課題.....	40

参考文献
資料

要旨

スピーチレベルの選択について、母語話者の間にはほぼ共通した認識が存在すると思われるが、学習者、特に日本在住の留学生は日本語スピーチコミュニティへの参加経験を通して試行錯誤しつつ、自らスピーチレベルの使用規範を構築し、習得し続けなければならない。彼らのスピーチレベルの使用実態を解明するためには、数多くの先行研究が行われてきた。その大部分は初対面という人間関係に焦点をあて、多数の対象者を集め、複雑なネットワークから一つの関係性のみに着目し比較することによって行われた研究にとどまっており、スピーチレベルの実際使用については、依然として不明な点が残されている。しかしながら、人間関係の構造は初対面で終わってしまうのではなく、人とコミュニケーションを取りながら、周りの他者と結びつくに伴い、それぞれが社会的ネットワークを構築するのが常である。そこで、本研究では少数の対象者に絞り、その人が実生活場面での人間関係及び場面におけるスピーチレベルの選択基準にはどのような中間言語的な特徴があるかを分析・考察することを目的とする。考察結果に基づき、スピーチレベル指導において有用だと思われる具体的な提案を行う。

本稿では来日以前に日本語学習経歴を有する日本在住の上級学習者2名を調査対象とし、彼らを取り巻く社会的ネットワークの中から、日常生活で日本語母語話者との接触場面においてその場で行われた会話を録音・文字化する。それをデータとして、学習者が会話相手と場面によってスピーチレベルをどのように使い分けているのかを調査し分析した。

スピーチレベルは文末のスピーチレベルと語のスピーチレベルに大きく分けられるが、本研究では、特に文末の「デスマス体」の使用・不使用、「ダ体」の使用・不使用といった文末表現に注目した。以下は調査結果のまとめである。

本稿の調査結果において、上下関係に関しては、CJ2は相手が自分と同年輩にも関わらず、「デスマス体」を用いて丁寧な話し方をしている一方で、CJ1の会話データの一つでは「社会的規範」からの逸脱が見られた。しかし、コミュニケーション上の障害にはならず、仲間同士として柔軟に接している様子も見られた。「言語的要因」についての調査結果には、CJ2の会話データには「適語探索」が観察され、上級学習者には「適語探索」によるシフトが必ずしも現れないことがわかった。また、母語の干渉は特に見られなかった。「個人的ストラテジー」についての考察結果、「ダ体」発話による括り、スピーチレベルの自己修正や話者交代によるスピーチレベル選択には差が見られた。

本研究では、異なる社会的ネットワークへの考察を加えた結果、実生活場面に基づいたスピーチレベルの使用はより複雑を極めていることが判明し、教科書で一般的に示されているスピーチレベルに関する固定的な規範を理解するだけでは、日本語スピーチコミュニティに円滑に参加できるようにならないことが明らかになった。しかし、上級話者が主体的に社会参加をするとともに、人的ネットワークを自ら意識的に構築していく過程で、試行錯誤を繰り返しながら運用の機会を増やすことが重要だと考えられる。社会参加の機会が多ければ、上級話者は自身が置かれたそれぞれのコンテキストを批判的に考える練習を

積み、そこで使用すべき適切かつ妥当なスピーチレベルについての、〈自らの規範〉を自律的に学び取り、身につけていくことが可能であることが本研究の調査から得られた示唆だと言える。

参考文献

- 伊集院 郁子 (2004) 「母語話者による場面に応じたスピーチスタイルの使い分け：母語場面と接触場面の相違」, 『社会言語科学』 6 (2) ,pp12-26,社会言語科学会.
- 宇佐美 まゆみ (1995) 「談話レベルから見た敬語使用—スピーチレベルシフト生起の条件と機能—」, 『学苑』 (662) ,pp27-42,1995-02,昭和女子大学近代文化研究所.
- 宇佐美 まゆみ (2001) 「「ディスコース・ポライトネス」という観点から見た敬語使用の機能—敬語使用の新しい捉え方がポライトネスの談話理論に示唆すること—」, 『語学研究所論集』 (6) ,pp1-29,東京外国語大学語学研究所.
- 上仲 淳 (2007) 「中国語を母語とする上級日本語学習者のスピーチレベルの選択基準」, 大阪大学言語文化学会, 『大阪大学言語文化学』 第 16 号,pp141-154.
- 酒井 智美 (2015) 「スピーチレベル・シフトに関する研究：親しい先輩・後輩の会話をもとに」, 『東京女子大学言語文化研究』 (24) , pp36-50, 東京女子大学言語文化研究会.
- 篠崎 佳恵 (2012) 「初対面二者間会話におけるスピーチレベルの変遷とその要因：普通体の指標的意味に着目して」, 『桜美林言語教育論叢』 (8) , pp15-28.
- 寺尾 綾 (2010) 「文末形式の運用とスタイル切り換え—日本語を学ぶ中国語母語話者の縦断データから—」, 『阪大日本語研究』 (22) ,pp113-142,大阪大学大学院文学研究科日本語学講座.
- 田 鴻儒 (2009) 「中国における上級日本語学習者のスピーチレベルの使い分け—初対面会話相手の年齢に応じて—」, 『大阪大学言語文化学』 , (18) ,pp169-181.
- 趙・高中 (2018) 「中国における日本語教育用テキストの特徴」, 『事業創造大学院大学紀要』 第 9 巻・第 1 号,事業創造大学院大学,pp133-143.
- 陳 文敏 (2003) 「同年代の初対面同士による会話に見られる「ダ体発話」へのシフト—生起しやすい状況とその頻度をめぐって—」, 『日本語科学』 (14) ,pp7-28,2003-10.
- 陳 文敏 (2004a) 「スピーチレベル・シフト研究の現状と課題」『日本学と台湾学』 (3) ,pp28-48,静宜大学日本語文学科.
- 陳 文敏 (2004b) 「台湾人上級日本語学習者の初対面接触会話におけるスピーチレベル・シフト—日本語母語話者同士による会話との比較—」, 『日本語教育論集』 (20) , pp18-33, 国立国語研究所.
- 堀口 純子 (1997) 『日本語教育と会話分析』,くろしお出版.
- 三牧 陽子 (2002) 「待遇レベル管理からみた日本語母語話者間のポライトネス表示—初対面会話における「社会的規範」と個人のストラテジーを中心に—」, 『社会言語科学』 5 (1) ,pp56-74,社会言語科学会.
- 三牧 陽子 (2013) 『ポライトネスの談話分析—初対面コミュニケーションの姿としくみ』,くろしお出版.
- 宮武 かおり (2009) 「日本語会話のスピーチレベルを扱う研究の概観」『コーパスに基づく言語学教育研究報告書』 No.1,pp305-322.